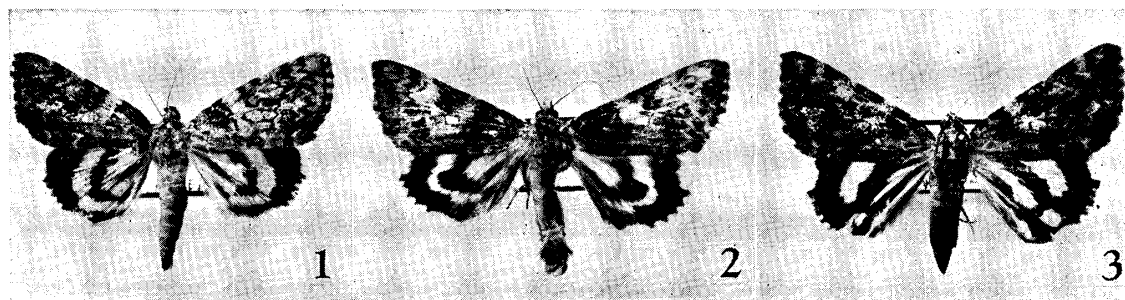
岡山県のカトカラ

赤 枝 一 弘[1)]

A list of *Catocala* in Okayama prefecture

By KAZUHIRO AKAEDA

岡山県の蛾についてはすでに1930年に県内生物目録として535種が発表され，また1959年には美作産蝶蛾目録として，片山豊八氏によって856種が発表された。また現在槙本精二氏により倉敷昆虫館の標本を中心とする発表が，倉敷昆虫同好会誌〝すずむし〟誌上になされている。

筆者はここに岡山県のカトカラについて発表に当って種々の資料の提供をいただいた槙本精二氏，アサマキシタバの同定その他，種々の御教示をいただいた緒方正美氏，槙本氏を通して *Ephesia connexa* について，丁寧なお答をいただいた杉繁郎氏，また本文中に記録を引用さしていただい諸氏に感謝いたします。

岡山県初記録のカトカラ3種
1. *Catocala duplicata*（高梁市臥牛山），2. *C. streckeri*（新見市草間），
3. *C. hyperconnexa*（高梁市臥牛山）。

目 録（List）

従来知られた岡山県下のカトカラは11種であったが，1965年に3種追加され14種になった。

1. *Catocala nivea* BUTLER シロシタバ

岡山県生物目録には真庭郡木山を産地として上げ，北部一円に産すと記載されている。その後の記録としては津山市大谷，苫田郡下斉原村花知が山（片山豊八）；高梁市玉川町上神崎1963.8.24（渡部太郎）の記録があり，少ないが県の中部以北に産するようである。

2. *Catocala nupta nozawae* MATSUMURA エゾベニシタバ

生物目録に勝田郡古吉野の記録があるが，その後の記録はない。

3. *Catocala dula* BREMER オニベニシタバ

次の記録があり，県下全域に産するが比較的少ない。

岡山市三門[(1)]・阿哲郡丹治部[(1)]；新見市新見，1965. 7. 23（岡本忠）；高梁市臥牛山，1965. 8. 2（赤枝一弘）。

4. *Catocala electa zalmunna* BUTLER ベニシタバ

次の記録があるが前種より少ない。

---

1) 岡山県西大寺市益野 190 D—42

真庭郡長田[1]；苫田郡下斉原村花知が山[2]（片山豊八）。

5. *Catocala patala* C. et R. FELDER キシタバ

県下各地に産す。

6. *Catocala praeqnax esther* BUTLER コガタキシタバ

県下各地に産す。

7. *Catocala fulminea xarippe* BUTLER ワモンキシタバ

次の記録があり各地に産するが少ない。

久米郡大井西・真庭郡勝山[1]；津山市内[2]（片山豊八）；都窪郡福田村[1]，1959.6.30（槙本精二）。

8. *Catocala duplicata* BUTLER マメキシタバ

従来は県下未記録であったが，次のように記録された。

阿哲郡神郷町神代[14]，1965.7.18（大橋英雄）；川上郡弥高山，1965.8.16（高岡元章）；高梁市臥牛山，1965.8.2；1965.8.11（赤枝一弘）。

産地では多産する。

9. *Catocala streckeri* STAUDINGER アサマキシタバ

本種も県下未記録であったが，次のように記録された。

新見市草間，1965.6.13（赤枝一弘）。

本種はかつては中部山地の種と思われていたが[12]，1962.6.1 に福井県 武生市で採集され[11]，さらに 1963.6.2～10 に滋賀県八日市[17]でも採集され，関西地方にも産することが分った。いずれも6月の記録であり，本種の発生は他種より早いことが分る。なお採集地の草間は吉備高原の奥であって，中国山地ではない。なおこの記録は現在では最も西のものと思われる。

10. *Catocala intacta* LEECH ウスイロキシタバ

発表されたものに次の記録があり，少ないが県下全域に産すると思われる。

浅口郡金山・真庭郡勝山[1]；津山市内[2]（片山豊八）；玉島市玉島[17]1963.6.20（槙本精二）。

11. *Catocala nubila* BUTLER ゴマシオキシタバ

県生物目録[1]にはハイイロキシタバ♂ *Ephesia connexa* BUTLER として出ているが，杉によれば[15][7]本書の同定者である松村が使用したハイイロキシタバ(*connexa*)は LEECH に従ったものであるが，LEECH のいう *connexa* は実は今日の *nubila* を示していることが分る。従って下記の記録は本種をさすものと思われる。（杉氏の御手紙によると生物目録の蛾の部は鈴木元次郎氏の担当と考えられ，氏が Seitz に従って同定したと考えられ，標本の焼失した現在断定はできないが，一応ゴマシオと考えられるとのことである）。その後の記録がないので再発見が望まれる。

12. *Catocala hyperconnexa* SUGI アミメキシタバ

本種は近畿地方には多いらしく，また九州彦山でも記録されているが[6]，中国地方では初記録と思われる。

高梁市臥牛山，1965.8.2；1965.8.11（赤枝一弘）。

産地の臥牛山は県中部の山で樹相豊富であり，各種の珍種が産する。産地では多産する。

13. *Catocala ninifica* BUTLER カバフキシタバ

阿哲新砥[1]；阿哲郡神郷町神代[16]，1965.7.18（大橋英雄）。

大橋氏の話によると倉敷市内でも採れているとのことである。なお蛾類通信 No.20 によると井上氏によって，片山豊八氏の本県からの献上標本に本種が含まれていることが紹介されている。いずれにせよ少ない種と思われる。

14. *Catocala actaea* C. et R. FELDER エゾシロシタバ

黒沢山[3]（片山豊八）；高梁市臥牛山，1965.8.2（赤枝一弘）。

少ない種である。

学　　名	種　　名	Okayama 岡山県	Hyôgo 兵庫県	Hirosima 広島県
Catocala fraxini	ムラサキシタバ		○	○
C. nivea	シロシタバ	○	○	○
C. dissimilis	エゾシロシタバ		○	
C. nupta	エゾベニシタバ	○		
C. dula	オニベニシタバ	○	○	○
C. electa	ベニシタバ	○		○
C. patala	キシタバ	○	○	○
C. praegnax	コガタキシタバ	○	○	○
C. fulminea	ワモンキシタバ	○	○	○
C. jonasii	ジョナスキシタバ		○	○
C. duplicata	マメキシタバ	○		○
C. streckeri	アサマキシタバ	○		
C. intacta	ウスイロキシタバ	○		○
C. nubila	ゴマシオキシタバ	○	○	
C. hyperconnexa	アミメキシタバ	○		
C. connexa	ヨシノキシタバ		○	
C. suparans	フシキシタバ		○	
C. minifica	カバフシキシタバ	○	○	
C. nagioides	ヒメシロシタバ			○
C. actaea	エゾシロシタバ	○		○
C. kuanglungensis	クロシオキシタバ		○	

岡山県のカトカラとその隣接諸県の分布

近県との比較

この表は岡山県の東西の兵庫，広島両県との比較表である。兵庫県のクロシオキシタバは山本義丸氏から槇本精二氏への私信によった。また広島県のジョナスキシタバも文献にはないが，筆者は1957. 7. 23に広島県道後山にて採集し，倉敷昆虫館に出品している。なお岡山県の北の鳥取県については文献は分らぬが，1965年8月，倉敷昆虫同好会の田辺恒彰氏等が伯耆大山からヒメシロシタバ，ジョナスキシタバ，ヨシノキシタバ，シロシタバ，エゾシロシタバを採集し，倉敷昆虫館に出品しているので参考になる。

この表でも分るようにかっては本州西部では記録がなかったムラサキシタバ，アサマキシタバ，ヒメシロシタバ等が西部にも次々と産することが分り，近県のようすから考えて岡山県下でも県北でムラサキシタバ，ジョナスキシタバ，ヨシノキシタバ，ヒメシロシタバは近く採集出来ると思う。

SUMMARY

Up to present 11 species of the genus *Catocala* are recorded from Okayama Prefecture. In the present paper the author adds 3 species of the genus, *duplicata*, *streckeri* and *hyperconnexa*, to the fauna of this area. Latter two species are also the first record from the Chugoku District.

文献目録

1. 岡山県 (1930)，岡山県内生物目録。

本書中の同定は松村松年，岡本半次郎，鈴木元次郎の諸氏によって行われた。なお使用された標本は1945年の岡山大空襲により焼失した。

2. 片山豊八 (1959), 美作産蝶蛾目録。 岡山と昆虫。
3. 片山豊八 (1960), 黒沢山蛾類一覧 (第1報)。 美作の自然, No.6。
4. 清水健一 (1964), 厳島 (宮島) の注目すべき蛾類。広島虫の会会報, No.3。
5. 杉繁郎 (1958), 日本産蝶蛾目録。
6. 杉繁郎 (1959), 日本の *Catocala*。新昆虫, Vol. 12, No.7, 8。
7. 杉繁郎 (1965), 日本及び台湾産の *Catocala* の新種及び未記録種。Tinea, Vol. 7, No.1。
8. 中川秀幸 (1963), ヒメシロシタバ広島県に産す。蛾類通信, No. 32。
9. 中村慎吾 (1961), 広島県北部山地の蛾類 (第1報)。比和科学博物館研究報告。
10. 中村慎吾・中村豊二・清水健一 (1961), 広島市とその周辺の蛾類目録。比和科学博物館研究報告。
11. 福田久美・石田淳一 (1962), ウスイロキシタバ, アサマキシタバ福井県に産す。蛾類通信, No. 35。
12. 保育社 (1958), 原色日本蛾類図鑑 (下)。
13. 北隆館 (1959), 原色昆虫大図鑑 (I)。
14. 槙本精二 (1960), 都窪郡福田村産蛾類目録。すずむし, Vol. 11, No. 1。
15. 槙本精二 (1964), 蛾2題。すずむし, Vol. 13, No. 4。
16. 槙本精二 (1965), 同定会の蛾について。すずむし, Vol. 15, No. 2。
17. 森石雄 (1963), 八日市産 *Catocala* 3種の食性について。蝶と蛾, Vol. 14, No.3。
18. 山本義丸 (1956), 氷ノ山の蛾類について (第2報)。兵庫生物, Vol. 3, No. 3。
19. 山本義丸 (1958), 兵庫県氷上郡昆虫目録。
20. 山本義丸 (1959), 氷の山の蛾類について (補遺)。兵庫生物, Vol. 5, No. 3。

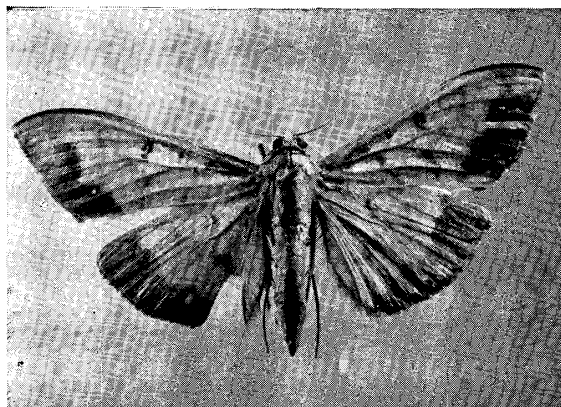
浜松市でアカヘリオオキノメイガを記録

渡 辺 一 雄[1)]

A record of *Botyodes asialis* GUENÉE from Hamamatsu (Shizuoka Pref.)

By KAZUO WATANABE

本種は原色昆虫大図鑑1 (井上) によれば, 日本では黒子浩氏が九州の彦山で4月下旬と8月上旬に数頭採集された以外は記録がなく, 海外では台湾以南の諸地域に広く分布しているという。当市の蛾類研究者であった故斎藤徧理氏が採集された標本中に, 本種が含まれていることがわかったので報告する。

1♀, 浜松市, 1954年6月26日, 斎藤徧理氏採集 (同氏宅に保管)。開張, 46粍。体長, 18粍。

浜松市でとれたアカヘリオオキノメイガ

1) 浜松市紺屋町 165